

「いっそうの国際貢献を目指して」

本機構の創立記念助成事業に選んでいただいた「日中韓文化交流フォーラム」は、ソウル、北京と周り本年秋には東京でフォーラム全体会議を開催することになっております。三国間の文化交流を通じて相互理解を深化・促進するという所期の目的を着実に果たしつつあることを、まずご報告させていただきます。また去年は、やはり私に関わりの深い社団法人日本ユネスコ協会連盟が「文化遺産国際協力推進法」成立を記念して開いた、国際シンポジウムにも貴重な助成をいただきました。

これも全日本社会貢献団体機構並びに全日本遊技事業協同組合連合会が、歴史的な人類遺産の保護事業に深い共感を示され、すぐには結論が見えないこの分野へ勇気あるバックアップを継続される意思の表明と深く感謝しています。また「文化財赤十字」活動を生涯つづけたいと念じている者として、大変誇りに思っております。

ご承知のとおり、日本の経済は変わらず厳しい環境下であり、文化財保護というお金も人手も時間もかかる領域に多額の予算を割けないのが現状です。しかし例えばイタリアにおいては、ダ・ヴィンチ壁画修復に象徴されるように、国家的規模で文化財保護に力を注いでおり、予算の多寡ではなく、まさに「自国の文化遺産」に対する認識が共有されているといえます。

その意味では、わが国の場合、最近の高松塚古墳の例を挙げるまでもなく、文化遺産が次の世代、さらにはその次の世代の「至宝」であるとの意識が、まだ醸成途上にあるということができるとも思われます。しかし、「どんな風に文化遺産を守っていくのか」という原理原則を確立し、素材の分析科学から生物研究、保存修復、考古学に及ぶ、研究者の知見は、世界水準を凌駕していると思います。それらの知恵を結集すれば、必ずや日本は「文化で国際貢献を果たせる」と私は確信しています。

状況を単に憂えているだけではなく、それぞれの国に自国の文化への誇りを甦らせ、人が交流し、理解を深め合う息の長い各種事業に、本機構が社会貢献の側面から取り組んでいる足跡を今年度の報告書から読み取っていただければ、これに勝る喜びはありません。



全日本社会貢献団体機構 名誉会長

平山 勲夫